

国語

その①

「漢字」「語彙」など、身に付けた〔知識及び技能〕を、 学校生活の様々な場面で必ず使うようにしましょう。

「漢字」や「語彙」に関する内容については、これまでも岐阜県の児童生徒の課題となってきましたが、今年度調査においても引き続き課題となっていることが明らかになりました。本資料では、成果を上げている学校で取り組まれている実践例や自校の指導を見つめ直すポイントについて紹介します。

課題の見られた問題 出題の趣旨と結果

小学校	3三 イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う。(はんせい「反省」)	正答率	全国 58.7%	県 51.3%	自校 %
			(■解説資料 P.38~P.39 ■報告書 P.62~P.63)			
中学校	3一	表現の技法について理解する。	正答率	全国 52.5%	県 54.2%	自校 %
			(■解説資料 P.30~P.31 ■報告書 P.44~P.46)			

指導改善のポイント



こんなに漢字を使えてうれいな。
このときの気持ちはあの表現を使って表すことができるな。

～「国語の勉強が好き」な児童生徒を育てるために～

漢字を読んだり書いたりする機会を意図的・計画的に設定しましょう。漢字を繰り返し書いて練習することのみならず、漢字の意味を考えながら、文や文章の中で正しく使うことができるよう指導することが大切です。そのために、指導した内容を、様々な場面で評価し、指導改善につなげましょう。そして、漢字を使った姿を大いに褒め、**使いこなせた喜び**を感じさせましょう。

授業アイデア例

成果を上げている学校では、学校ぐるみで取り組む仕組みがあります。

新出漢字との出会い方を工夫しましょう。

例えば・・・

国語辞典や漢字辞典、タブレットなどを使って、新出漢字の成り立ちや使い方の例を調べたり、新出漢字を使って文を作ったりする時間を位置付ける。



「録」という字には、「金へん」が使っているな。これは、昔「青銅器(金属)に文字を刻みつけていたため」だからなんだな。なるほど。

「録」を使って短文を作ろう

「音楽の時間にリコーダーの演奏を録音した。」

「私は観たい映画を録画した。」

漢字への興味・関心が高まる効果が考えられます。

帯時間を活用して定着を図りましょう。

例えば・・・

朝学習や授業前の時間を活用し、漢字を文や文章の中で正しく使うことができるようにする。

言葉集めをする

同じ読みの漢字、似た形の漢字、間違えやすい漢字を調べて集める。

習った漢字を使って文を書き直す

「いいんかいかつどうのおしらせ」
→「委員会活動のお知らせ」

漢字クイズづくり

習った漢字を使ったクイズを考え、グループ内で出し合う。

楽しみながら漢字を習得する効果が考えられます。

日常的に漢字を使うよう指導しましょう。

例えば・・・

日記や生活記録を読む際に、漢字を正しく使って書いているかを見届ける。



漢字を適切に使えるように、子どもたちに文章を書くときの「わざ」を指導しよう。

文章を書くときの「わざ」

漢字や言葉を使いこなす達人になろう

- ・ 習った漢字は必ず使いましょ。
- ・ 主語と述語の関係や敬語など、正しく使っているかを見直しましょ。
- ・ 書いた後は必ず読み返しましょ。

日常的に漢字を使うことで、漢字を使い慣れるという効果が考えられます。

読書を通して、「語彙」を増やす機会を！

読書することで、教科書以外の言葉や漢字に触れる機会が増えます。分からない言葉や読めない漢字を調べる習慣が身に付くと、自然に語彙の量が増えていきます。そうして得た言葉を、実際に日常の会話や文章で使うことにより、質が高まります。漢字の学習が苦手な児童生徒も、読書をすることで語彙を増やしたり、漢字を読んだりする力を身に付けることが可能になります。

朝活動等で読書の時間を生み出していましょ。



指導改善のポイント

～「国語の勉強が好き」な児童生徒を育てるために～

〔思考力、判断力、表現力等〕の単元においても、〔知識及び技能〕の資質・能力を育成し、評価します。その際、〔知識及び技能〕に示された内容を〔思考力、判断力、表現力等〕から切り離されたものと捉えるのではなく、**思考・判断し表現することを通じて育成を図ることが大切です**。学びの質が高まり、学ぶ楽しさを実感することができます。

例えば、単元で育成する資質・能力の〔知識及び技能〕が（１）ア「言葉の働き」の場合は、単元の指導と評価の計画に位置付け、〔思考力、判断力、表現力等〕と関連させて指導し、評価します。

授業アイデア例

小学校第4学年「もしものときにそなえよう～考えたことを書き、読み合おう～」（2月頃）

文章を読み合い、書こうとしたことが明確に表現されているところを見つけて伝え合うとともに、自分の文章のよいところを見付けることをねらいとしています。アイデア例では、文章を互いに読み合う際に、「知識及び技能」(1)の力「文や文章」と関連させて「接続する語句」に着目させることで、〔知識及び技能〕の定着を図る指導例を紹介します。

「交流の視点」を提示し、ペアで読み合う。

<板書の例>

<①・②の視点で交流している例>

児童A: Bさんの文は、大雨のときにどうして早めに避難したほうがよいか、「天気的安全ブック」や防災資料室の岸さんの話があるので、詳しく分かりました。私も、大雨のときは安全な場所に行きたいと思いました。

児童B: 書き方についてはどうでしたか。

児童A: 「なぜなら」という言葉を使って、理由をはっきりさせていたことや、「もう一つ…」と、理由が二つあることが分かるように書いていた点がよいと思います。

児童B: 早めに避難することや表現を工夫して書いたところが伝わってうれしいな。こんなふうにはけるようになってよかった。また、書いてみたいな。

友達と文章を読み合って感想を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けよう。

こんなところを見つけて伝え合おう。

① 書こうとしたことがはっきりしているか。

② 工夫していると思った書き方、つなぎ言葉の使い方など。

中学校第2学年「表現を工夫して書こう～手紙や電子メールを書く～」（9月頃）

お礼の手紙等は、相手や目的に応じて、具体例を加えたり表現を工夫したりして書くことを理解し、自身の手紙を再考することをねらいとしています。アイデア例では、〔知識及び技能〕(1)の力「言葉の働き」、力「言葉遣い」と関連させて「敬語」や「表現の工夫」に目を向けさせ、思考・判断し表現することを通して定着を図る指導例を紹介します。

<学習の進め方の例>

① 例文のよい点や改善点について全体で話し合い、お礼の手紙を書く際に大切にすべきことを共有しましょう。

感謝の気持ちを伝えるのだから、どんなときにどう感じたのか、何を考えたのかを具体的にしたり、気持ちが伝わるように表現を工夫したりするとよいと思います。

② 全体で確認した「大切にすべきこと」を基に自分の手紙を読み返し、具体例を書き加えたり表現を工夫したりして仕上げます。

この部分は敬語になっていないから直そう。喜びを「…」という表現で伝えよう。

<板書の例>

感謝の気持ちを伝えるために、主文は、どのように書くときよいだろう。

お礼の手紙の主文

実際に作業を体験し、刃物作りは、大変だということが分かりました。よりよい商品をお客さんに届けたいという気持ちで、一生懸命作業して「すごい」と思います。私の家にある刃物も、こうして作られていることを知りました。

敬語を使う「ざれていて」「心を込めて」

表現を工夫姿が、印象に残っています

相手や目的に応じて敬語を適切に使う。伝えたいことを明確にし、具体例を入れたり、表現を工夫したりする。

何が大変なのか 具体的に

教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成〔知識及び技能〕

学習の基盤となる資質・能力の一つ「言語能力」を身に付けるために、右に示す〔知識及び技能〕を育成することが求められています。学習した〔知識及び技能〕を使って表現する機会を設定し、児童生徒の姿を価値付けていきましょう。

- 例
- 総合的な学習の時間でお礼状を書く場面で、敬語や表現の工夫に目を向けている姿を価値付ける。
 - 理科で結果を基に結論を導き出す場面で「このようなことから」という言葉を使ってまとめている姿を価値付ける。

「言語能力」を構成する資質・能力

知識及び技能

- 言葉の働きや役割に関する理解
- 言葉の特徴やさまじりに関する理解と使い分け
- 言葉の使い方に関する理解と使い分け
- 言語文化に関する理解
- 既存知識に関する理解

「学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」より